

□には、リンクがあります。※は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム 第二朋寿 ※

日付 平成17年9月29日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験14年、家族の会支部代表
評価調査員 在宅介護経験17年
評価調査員 在宅介護経験11年
評価調査員 老人保健施設介護実務経験5年、居宅支援
事業所介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！) ※

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 早く両親を亡くして親孝行ができなかった代表者が「お年寄りに恩返しを…」の思いをこのホームに託し、笑顔あふれるホーム作りを目指している。 管理者をはじめ職員は、まず利用者の健康面での気配りを大切にしている。 医師との連携が綿密に取られていることに感心した。また、利用者の夫々の生活歴や考え方を汲み取り、それに沿ったホームでの生活援助をしていこうとする姿勢が感じられた。又、お年寄りの残っている能力を生かそうとする気配りもあってか、お年寄り達の落ち着いた顔つきが印象的。「ここの職員の○○さんが良くしてくれるので、嬉しいのよ…」という利用者のしみじみした言葉が聞かれた。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居居の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 食堂の共用スペース以外にも廊下に椅子、ソファを配して、自分の居場所として活用されるようになっている。 昔馴染みのデンデン太鼓の置物等で昔なつかしい場づくりに配慮されるなど、何となく落ち着ける雰囲気が出ている。現実にお年寄り達は、話し合う人や自室で休む人、テレビを見る人等夫々の過ごし方をゆったりと持っているように見える。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議		○
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人で行えることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせて調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

外部評価の結果

簡評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

ビジネスホテルを改修して、デイサービスとグループホーム3ユニットを併設している。2～4階に各ユニットを配置しているが、各ユニット内には、手作りの飾りや利用者の作品で、暖かく楽しい雰囲気を作り出している。

利用者の健康管理面に万全を期すため、スタッフに看護師を配置し、スタッフと共に日常の健康管理面に細心の配慮をしていることが伺えた。又健康管理記録や資料をきっちりと整えて、医師に受診する時は資料を提出して情報を共有して、医師との連携を心惜い程しっかりとしていることに感心した。又グループホームのケアの重点項目に食事がある。健康に一番密着したことであり、楽しい生活にも食事は大切なことなので、今後共、献立、買物、調理、食事時間中の雰囲気、片付け等一連の時間を利用者と一緒に盛り立てていきたい。

ホームの生活は、利用者主体の精神が貫かれ、自己決定が少しでも出来るように支援している。洗濯物の一連の仕事や調理一連の手伝い等を生活の中で一人ひとりが出来る事を尊重して取り組んでいる。また全員で体操をしたり、簡単な脳トレーニングをしたり、折り紙をしたり、職員と一緒に新聞や広告を見て話をはずませて、生活リズムをつけて楽しそうに過ごしている。

職員は利用者一人ひとりへの気配りも良くして、トイレ誘導等も適切にしていることが見られた。利用者の落ち着いた中にも、女性達は井戸端会議のように良く喋り、男性達はジョウウも飛び出す程、気の合った者同志の明るい雰囲気が漂っているところに、このホームの力を感じた。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

- ①リビング・居室とも窓の位置が高いのと、共用ゾーンが狭いのでやや閉塞感が感じられる。それを解消するためにも、散歩や買物等の戸外の空気を吸う取り組みの頻度を一層高めることが大切だと感じた。
- ②季節の鮮度を感じさせる旬の食材を是非一部でも取り入れると嬉しい。
- ③家族への通信として、「ホーム会報」が年2回発行されているが、スタッフ全員で相談して毎月発行すると家族とのコミュニケーションが一層深まるものとする。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援		○
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 利用者とのコミュニケーションを大切にしている。症状の度合によって、利用者の気持や希望を知ろうとしたり、その人の出来ることのきっかけをつけるための問いかけやお願い等の語りかけの工夫も、良く工夫していることが確認できた。認知症ケアの心の通じ合いが確実に出来ていると感心した。 このようなコミュニケーションが、利用者の表情の観察や動き、体調などへのアンテナが張り巡らされており、利用者がしようと思っていること、仕事をして貰う事に対応していている。 欲を言えば、利用者の辿ってきた生活歴を探し、ホームでの生活に広がりを持たせてあげ、ホームに閉じこもらないよう配慮して、屋外での活動を出るだけ増やすよう努力して欲しい。 「栄養・衛生・健康」をモットーに健康管理に気を配り、医師との連携を密にしている。職員の見守りや寄り添いもしっかり出来ていて、楽しい雰囲気がある。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供		○
34	地域との連携と交流促進		○
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 健康面のこまやかな心配りと医師との連携により、安心して過ごせるホーム作りを目指している。開設3年を経過し、経験と研修を積み重ねて来た自信が伺える。それと共に、一層高い安定的な人材確保や養成といった課題に立ち向かう段階にきていることを管理者が自覚していることに期待を寄せたい。 新幹線駅近くのビジネスホテルを改修して、グループホームとデイサービスを立ち上げた。ホテルとか商店街の閑店している所を活用して、街中の便利な所にこのような福祉施設を造り、地域の人が集まれるところは、これからの時代の先駆けである。小規模多機能ケアの先駆者として今後の活動に期待している。		